

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

ときわ荘修道院

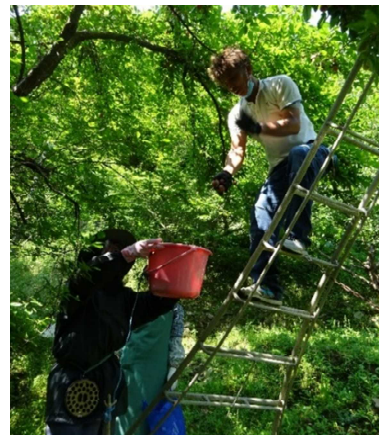
自然の中での暮らし

ときわ荘は恵の丘の低地に位置し、恵の丘の中でもかなり自然の中で自由な生活をしている。50名のご利用者と4階に6名のシスターが暮らしている。9/1～10/4までホームのロビーに展示を行い「すべてのいのちを守るための月間」を意識して過ごした。

ときわ荘では、職員、ご利用者とともに環境保護に取り組んでいる。そのため、水や電気を無駄なく利用するよう一人ひとりが意識している。高齢者の安全、健康を守りながら、適切に冷暖房を使用するために、天気予報等で情報を収集し、その日の天気、湿度や温度、風があるかを確認している。（全館での冷暖房の使用はせず、必要な部分だけつけている。）職員間でも一人ひとり体感や体力、生活習慣が違うためどのような使い方をするか話し合うなどのコミュニケーションや思いやりも大切となる。コロナ対策の一つとして雨天以外の日は廊下の窓を開けているが、ある時ご利用者より「節電って言っていますが、窓を開けて除湿器をつけて換気扇を回していますよ。」と、矛盾をつかれることもある。

さらに食材を大切にしようと、一人ひとりに合わせた食事を提供することで食品ロスをなくすよう心がけている。またある物を有効に活用するために、時間をやりくりして整理整頓を進めている。ゴミをきちんと分別して適切に捨てることや、また物が壊れないように手入れや保管をきちんとして大切に使うことにも努めている。

暮らしに夢や目標があり、使命感を持っていることも大切だ。神さまの導きを信じるなど心の豊かさがあり、地球にやさしい暮らしを目指すことは、私たちの命を生き生きと輝かせてくれる。



ときわ荘の職員とシスターたちの梅ちぎり

修道院の取り組み

修道院では、本部から紹介された気候クライシス等のDVDやUISGの研修会に皆で参加するなど共同体として学ぶ機会を持ち続けている。また、それぞれ個人で現代社会の動向や環境に関する情報を収集し、学んだ際には共同体で伝え合っている。

そして、栄養のある食事で体力をつけ、暑さ寒さに負けない体、免疫力を高め感染症になりにくい体になるように取り組んでいる。院内の姉妹を中心にときわ荘でとれる梅やシソ、イクリ、つわ、フキ、銀杏、栗、みかん、畑の野菜など大地の恵みを収穫に行き、時間をかけて料理をしている。また、米のとぎ汁でEM発酵液を作り、掃除、洗濯、土づくりに活用している。コンポストでたい肥作りを試みたが、虫が発生したため腐葉土に変更し、土づくりの取り組みも続けている。



コンポストでの土づく

その他にも印刷物の裏面を利用し、ファックスやメモ用紙にしている。新聞紙や広告で紙袋を作り修道院で使用し、ホームにも提供している。朝のロザリオをしながら散歩に出かけ、健康の維持増進と自然の美しさを感じるひと時を持っている。自然の中に飛び込んで自然と共に時間を過ごしてみて、山が荒れていると感じている。イノシシが土砂を崩し、木にツタが巻き付き、草刈が追いつかず除草剤の散布を続けることによって、生態系に影響があるのではないかとの危機感を会員と共有したい。シスター江角が「何十年、何百年と使える土地ですから広い土地をつくってあげて、おいしい空気と緑と太陽をいっぱいあげて緑と花いっぱいのホームにしたいのです。」と希望をかけて開墾されたこの丘を、今こそみんなのために大事にしたいと思う。これからもお元気な有志のご利用者とともに、体が動く範囲で又、時間をつくって手入れをしたいと思う。福祉に携わる共同体として、人を癒すことによって、母なる大地を癒すこともできると信じ、「一人ひとりが神さまに愛されているかけがえのない存在であることを大切にします。」とのビジョンを胸に、今日一日を大切に励んでいる。